

K A W A K A M I D A M 2006
川上ダム通信 6月号

独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL: 0595-52-1661 (代)
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami>

土台はしっかり強いぞ!! 川上ダム

～依那古体験隊、川上ダムの試掘坑を探検～

カーン・カーン・キーン 澄んだ音が洞窟内に響き渡ります・・・

6月18日(日)に伊賀市依那古地区の子供たちを中心に地域の体験型学習を行っている団体・依那古体験隊が川上ダムの施設見学に来てくれました。この日は時折、雨がぱらつく梅雨空でしたが、依那古体験隊(依那古小学校1年生～6年生)の隊員たち(子供20人、保護者13人)は元気いっぱいです。

まず、職員手作りのスライドで洪水を防ぐダムの役割の他に、ダムを造るにはそこに住んでいる人や動植物が移転しなければならなくなるなどの影響について勉強しました。

基礎知識の勉強が終われば、施設見学に出発です。

最初に道路工事で橋を架ける現場を見学しました。次の見学場所が今日のメインである「洞窟探検」です。この洞窟は試掘坑(ダムを造るところの地盤調査のために掘ったトンネル)といい、人が楽に立って歩けるほどの高さで約40mの長さがあります。ダムを造るには堅い岩盤が適しており、堅い岩盤をハンマーで叩けば勢いよくハンマーがはね返り、音はキーンと澄んだ金属音がします。ここで隊員たちは、岩盤の堅さを勉強しました。試掘坑を約20m入った所の岩盤をそれぞれハンマーで叩きます。



試掘坑の岩盤をハンマーで叩く子供たち



子供たちに試掘坑について説明をする川上ダム職員

キーン・カーン・キーン、「堅い堅い」、「思ったより、すごく頑丈だ」、「ほんとに金属音がする・・・」。隊員とその保護者の方々の様々な声が飛び交います。

洞窟で丈夫な岩盤を確かめたあとは、オオサンショウウオの保護池を見学しました。

この施設見学会を通じて、ダム造りは「安全と安心」の積み重ねによってできるものということを知った子供たちはしっかり学んだことでしょう。

【総務課長 上村信幸】

ISO14001認証取得を目指してキックオフ！

川上ダムでは、「伊賀の里 自然にやさしいダムづくり」をモットーに、自然環境に配慮しつつ、工事を進めているところです。

川上ダムで働く私たち職員等が、環境保全の意識を向上して、工事での自然環境への配慮から、電気やゴミの削減などの身近な環境保全の取り組みにいたるまで着実に実施し、自然にやさしいダムづくりをさらに進めていくため、6月1日（木）、恒吉所長が環境マネジメントシステムISO14001認証取得への取り組み開始を宣言しました。これから、川上ダム職員等一丸となって1年後の認証取得を目指します。

※ISO14001は、環境配慮の取り組みを効率的かつ着実に実施するための環境マネジメントシステムの国際規格です。



職員を前にキックオフ宣言を行う恒吉所長

【環境課長 大村朋広】

地元の方への事業説明会を開催

6月7日（水）に川上区、6月12日（月）に上下流地区地権者会、ダム対策委員会及び区、6月24日（土）に桐ヶ丘自治会役員の皆様に対して、伊賀市職員にもご出席いただき、平成18年度川上ダム建設事業説明会を開催しました。

同説明会では、伊賀市のご挨拶に続いて、恒吉川上ダム建設所長から今年度の課題について説明するとともに、担当者から今年度実施予定の工事等について説明を行いました。この中で、川上ダム建設所としては一日も早く地域の皆様の安心・安全の確保が図れるよう努めることをお約束し、皆様にもご協力をお願いしました。

なお、川上ダム建設所では、今年度、付替県道松阪青山線の工事をさらに進め、来年度には概成させる予定であります。

【第一用地課長 河田洋弥】



川上ダム事業の説明をする恒吉所長

（上写真：上下流地区、
右写真：桐ヶ丘役員）



説明会に出席された川上地区の方々

たくさんのゴミを拾ったよ 名張クリーン大作戦

川をきれいにしようと6月4日(日)に「名張クリーン大作戦2006」実行委員会の主催で名張川の清掃活動が行われました。市内7会場で約1100人が集まり、川上ダム建設所からも職員とその家族15人が参加し、空き缶やプラスチック容器などを拾い集めた他、生活排水の流入口に、水質をきれいにする目的で木炭を設置しました。

この日集まったゴミは全会場で4tにもなり、河原に降りてみるとこんなに沢山のゴミが捨てられているんだと驚きでした。



ゴミを拾う川上ダム職員

【調査設計課 新見邦夫】

悠々と漂う花いかだ

6月4日(日)、名張市内を流れる梁瀬水路(城下川)で、「川の会・名張」(NPO団体)の主催で「花いかだ」作りが行われました。

「花いかだ」とは、ハナショウブを2艘の浮き船に乗せ、城下川に浮かべたもので、今年で17回目をかぞえ、川上ダム建設所はここ数年毎年参加しており、今年は10名が参加しました。

今年は、昨年本職の大工の方が中心となり、頑丈かつデザインに富んで作った浮き船の本体を基に、船周りの装飾のための竹の加工や取り付け、ハナショウブの植え付けを主に行いました。川上ダム職員の作業は船頭も多く、難航しましたが、最後には、水面を漂う姿に一同、ほっと胸をなでおろしました。

【第二用地課長 芦田哲郎】



妥協を許さない川上ダム職員



花いかだと参加者のみなさん

地域との架け橋「川上ダム通信」

「川上ダム通信」が名張市のケーブルTVで紹介されました。この「川上ダム通信」は、社内報として昨年5月から発行してきたものであり、川上ダムの出来事などの情報をもっと知ってもらおうと、本年5月より地域の方々に配信することが報道されたものです。

川上ダム建設所では、今後も地域や地元との連携をより一層深めるため、積極的な情報発信に努めていきます。

【総務課長 上村信幸】



ケーブルテレビ・アドバンスコープ
「名張・青山ニュース」より

川上ダム事業進捗状況の紹介 付替県道松青線4号橋下部工(A2)工事

4号橋は橋長107mで付替県道松阪青山線に架かる橋の中で2番目に長い橋です。

今回は上流側のA2下部工について、紹介します。

工事は明かり掘削を行った後、深礎杭2本と橋台(高さ6.5m)を施工するものです。

深礎杭は橋台の基礎となるもので、人や機械で直径2m、深さ8m～10m掘削し、しっかりした岩盤を確認した後、直径35mmの太い鉄筋を組立、コンクリートを打設し、安全で確実な基礎とします。なお、完成後は土の中なので見ることはできません。工事は7月に掘削に入り、下部工全体が完成するのは今年12月の予定です。



4号橋下部工 (H18.6.21撮影)

【工事課長 田原秀光】

新コーナー

創作『阿保千方湖物語』

伊賀・青山町は、阿保の里として飛鳥・奈良時代から歴史に登場し、伊勢参りの頓宮としても有名な地域でした。また、当地方には「藤原千方」の伝説とそれにまつわる事物が数多く伝えられています。このコーナーでは、「藤原千方伝説」をベースとして、数々の逸話や旧青山町の地名伝説などを織り交ぜた当建設所の創作物語「阿保千方湖物語」を連載していきます。

第①話 『悠久の阿保の里』

今からおおよそ2千年前。第11代垂仁天皇の時代に、都と皇室の始祖を祀る伊勢神宮とを結ぶ路が必要になり、その重要な拠点として選ばれたのが伊賀国・阿保の里(注1)でした。皇族の行啓に際して頓宮(注2)が設けられ、垂仁天皇の息子である息速別の命がこの地に遣わされました。阿保の人々は、里を栄えさせた息速別の命を守神として崇め、大村神社に奉って厚く信仰したことでした。(次号へ続く)

(注1)「阿保の里」・・・現在の伊賀市の旧青山町あたりをさすと考えられる。

(注2)「頓宮」・・・仮に造った宮殿。

〔川上ダム建設所編集〕



EVENT

第22回 青山夏まつり

花火の打ち上げ、盆踊り等が賑やかに行われます。

○日時／7月22日(土)

○場所／伊賀市青山支所駐車場(伊賀市阿保)

第26回 伊賀焼陶器まつり

1250年の伝統を誇る伊賀焼の陶器市。約40軒の窯元が自信作を展示即売します。交渉次第ではお値打ち品がもっとお安くなるかも・・・。

○日時／7月28日(金)～7月30日(日)

9時～17時(30日は16時まで)

○場所／あやまふれあい公園内「すぱーく阿山」(伊賀市川合字焼尾)

編集後記

今月号からシリーズ企画「阿保千方湖物語」の連載を開始しました。これからも読者の皆様に末永く読んでいただける企画を考えていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願ひします。

〔広報誌発行事務局〕

編集長 恒吉 徹(川上ダム建設所長)

デスク 上村 信幸(総務課長)

〃 北牧 正之(工務課長)

通信記者 武村 剛泰(総務課)

〃 立石 浩行(調査設計課)